

HAKUCHO JHS NEWS

発行所／白鷗大学足利中学校新聞委員会 足利市伊勢南町4-3 TEL.0284-42-1131



A circular portrait of Toshiyuki Horikoshi, a middle-aged man with glasses, wearing a dark suit and tie. He is looking slightly to his left.

校長就任のご挨拶

白鷗大学足利中学校長 中戸 康平

私が、白鷗高校から白鷗中に異動して来て一番最初に感じたことは、生徒の挨拶がきちんとしているということでした。毎朝、生徒の皆さんのに。

持ちの良い挨拶に元気をもらっています。

そして次には、勉強はもちろんのこと、部活動や同好会活動、生徒会活動や委員会活動などにも多くの生徒が意欲的に取り組んでいることが分かってきました。

また、白鷗中の特色の一つで“ファミリー中等部”と言われるアットホームな雰囲気は、林間学校や体育祭などの学校行事において、同じ組とな

つた上級生と下級生が、一体となつて他の組と競い合う中から形成されたものだということも分かつてきました。いずれも素晴らしい校風であると思います。

私の役割としては、先生方と力を合わせてこの良き校風を守り、さらにつの上に新たな歴史を積み重ねていく生徒を育てることだと思っています。どうぞよろしくお願ひします。



ホームステイでの思い出 春山 彩葉



ンスの整った食事だつたのでとても印象に残りました。ホームステイ中最も嬉しかった出来事があ
りました。それは、私たちが日本から持ってきたプレゼントを嬉しそうにそして楽しそうに遊んだり、食べたりしてくれたことです。それまでなかなか仲良くできなかつたホストファミリーと日本のものを通じて距離を縮めることができ嬉しかつたです。兄弟で取り合いをしたりケンカをしたりするほどプレゼントを気に入つてくれました兄弟と4人でトランポリンをして仲良く遊んだことは今でも鮮明に覚えて

言語や文化が違つても、モノや遊びを通じて互いを分かり合えるのだなと思いました。この4日間は私にとつて貴重な体験となりました。



僕に聞いてきた。僕は野球部がボールを呼ぶ時の掛け声が急に頭をよぎり「KOIKOI」という言葉を大きな声で言った。すると、マシューさんはこの言葉を気になってしまい、家に帰つてもずっと、「KOIKOI」と言つて、「変な言葉を教えてしまつたかな?」と僕は思つた。しかし、事あるごとに嬉しそうに、また樂しむように「KOIKOI」という言葉を使つてゐるマシューさんを見た。この言葉が魔法のように感じた。

生は昨年度、海外研修旅行と3月8日、13日、オーストラリアに行きました。その時に体験ホームステイでの感想です。

どんな言葉で話すかではなく、どのように思いを伝えるか、改めてコミュニケーションの大切さを実感した。

最終日はとても悲しい気分だったが、ここで経験したことは忘れないと心に誓った。素晴らしい経験をさせてくださいましたホストファミリーの皆さん。本当にありがとうございました。

菊池 亮太郎

文化の違いを学んだ4日間

僕はオーストラリアの研修旅行で文化の違いを強く感じたことが二つありました。

一つ目は、オーストラリアでは携帯電話を子どもに持たせるのが当たり前だということです（もしかしたら僕のホストファミリーだけかもしれないが・・・）ホストファミリーに会つて最初に驚かれたことは、携帯電話を持つてきてないことです。当然、学校のルールで携帯電話を持つていってはいけません。しかし、ホストマザーハーは「親との連絡は大丈夫なの？」と心配していました。また、息子のアーテフくんは「もし僕が持つていかなかつたらお母さんに殺されちゃうよ。」という冗談も言つていました。

二つ目は、時間にルーズなことです。2日目に「シドニーへ観光に行くから12時に出発するよ。」と言われたのに14時に出発したり、9時に朝食と言われたのにみんな9時に起きてきました。しまいにはも家の出発が20分遅れました。そういうことがあまり好きではないので常にハラしていました。

今回のオーストラリア研修旅行を通じて、相手の文化を理解することの大切だと思いました。日本では違つても、向こうでは当たり前。出発前の国際理解講座で学んだ、「郷には入れば郷に従え」とだと強く感じました。このような経験ができることは僕にとってとても貴重なものとなりました。



「！」と言つてハグや握手をして出迎えてくれた。そこから僕のホームステイの緊張は一気に解れた。自ら進んで話しかけ、僕達の意見を優先して料理を作ってくれたり海に連れて行ってくれた。始めは、理解が難しかつた英語も3日もすればホストファミリーと楽しく会話ができるまでになつていった。また、おいしかったお菓子について「このお菓子はどこで売つているの？」と尋ねるとお店まで案内してくれた。初めてのホームステイで言葉が通じた喜びと人の温かさに感動した。

このようにたくさん経験ができたのも、さまざまな人が陰で支えてくれたからという事を忘れてはならない。今回特に支えてくれたのは母である。オーストラリアに行く準備を一生懸命してくれた母。毎日僕のために働いてくれている母。普段はなかなか感謝の気持ちを伝えることができないが、改めて研修旅行を通じて母のありがたさに感謝したい。そして、常に誰かに支えられているのだということを忘れずぼく自身も誰かを支えられる存在になりたいと思う。

